

日本篆刻家協会会報

第2号 平成21年2月28日発行
発行：日本篆刻家協会
563-0032 池田市石橋2-2-10-203
TEL 072-760-3852
FAX072-760-3853

新年所感 理事長 山下方亭

新年おめでとございませう。

本年も何卒よろしく願ひいたします。

さて当協会は昨年度総会後より新体制によつて運営をしております。その結果、昨年は次の様な事業を展開する事が出来ました。

一、総会時の外部講師による講演。

一、二十四回展は国家機関の中国芸術院との共催展(寿山石篆刻印材による)篆刻史上初!!

新たな歴史を刻みました。

一、中央研究会も当会幹部によつて側款拓や外部講師による漢代印の講演。知識と実技の向上をはかりました。

一、十月には西冷印社創立百五周年慶賀記念大会への代表団派遣と揚州旅行等を催行。私の中国西冷印社名誉理事就任が決まりました。

十一月末には常務理事会による二十一年度の事業計画を検討し更に新年の理事会において決定をみました。既に二十五回展の出品票や総会案内が発送されたところです。二月の総会決議によつて本年度の活動が始まるわけですが種々業務についても見直しや改善を加えながら運営してまいります。

―創立二十五周年記念祝賀行事―

本年は当協会創立二十五周年にあたり、記念行事も具体化してまいりました。本年の総会時の外部講師の講演も定着。会員多数の出席を願ひます。協会会員収蔵の刻印による「日中刻印選」を二十五周年記念出版します。授賞式当日の記念セレモニーの中でこの記念出版印譜を会員皆様へ贈呈、在籍二十五年会員を調査して顕彰します。

八月の中央研究会は舞子ヒラで二三〇人で開催し講演は文字学の原点である「説文解字」について特別記念講演等を計画しております。今年も研究会時の分刻印譜も刊行します。具体的な日程やスケジュールは事業の計画等で係が詳細を発表いたしますのでご覧下さい。

―篆刻芸術の向上と会員参加型の組織へ―

協会運営は今後の社会状況を踏まえながら情勢に即した運営が求められております。協会の諸活動の充実を計りながら会員皆様のご負担の軽減を考えておりますので各事業には積極的に多数のご参加をお願いするところであります。参加をすればする程会員皆様にとつて有意義で内容があつて『参加して良かった』と実感できる企画運営をお約束いたします。当会は会員皆様の協会です。本年も会員皆様と共に会を盛り上げていきたいと念じています。

西冷印社創立一〇五周年記念大会

篆刻のメッカとされる西冷印社は、清代末期の光緒三〇年(一九〇四)西湖畔の孤山の麓で、金石学および印学について研究を行い篆刻振興と伝統継承を図ることを目的として、丁仁・王禔・葉銘・呉隱ら四人の篆刻家により設立された。五年ごとの節目に記念行事が開催されている。二〇〇八年、創立一〇五周年に各種記念事業が開催され、日本篆刻家協会からも参加した。



開幕式の舞台上(後列左から二人目山下方亭理事長)

◆記念大会(杭州香格里拉飯店)

一〇月二四日午前九時前、大会会場の杭州シャングリラホテル小礼堂へ到着する。会場入口ロビーには若いメンバーで編成されたブラスパンドが待機、吹奏楽が演奏される華々しい雰囲気の中入場し二階の外賓席に着いた。一階は社員席で、舞台は赤の背面に白文字で「西冷印社建社一〇五周年慶祝大会暨第一次社員大会開幕式」と大きく書かれ舞台いっぱいには主催者・来賓のための二十数席が二段に並べられている。全体では六〇〇人位入っているようである。次第次のとおり。

中国共産党杭州市委員会副書記
杭州市長 蔡奇 司会※司会より出席者と貴賓を紹介

中国共産党浙江省委員会常務委員
杭州市委員会書記 王國平 挨拶

中国共産党浙江省委員会常務委員
浙江省副省長 葛慧君 挨拶

杭州市副市長 陳小平 祝電、メッセージを披露

全日本篆刻連盟代表 中島藍川 挨拶

日本篆刻家協会理事長 山下方亭 挨拶

韓国篆刻学会代表 権昌倫 挨拶

杭州市人民代表大會常務副主任
西冷印社副社長 陳振濂 大會賓と新会員を発表

西冷印社常務副社長 郭仲選 答礼の挨拶



会場入口前の訪中団

山下理事長記念大会スピーチ

尊敬する中国共産党浙江省委員会・李金明主任、尊敬する中国共産党杭州市委員会・王国平書記、来賓の先生方、西冷印社副社長劉江先生をはじめ副社長の先生並びに列席の多くの来賓とご参集の印社社員の皆様、西冷印社建社一〇五周年を祝して心よりお喜び申し上げます。

本日の祝賀の席に私共の師、名譽副社長の梅舒適先生の逝去をご報告することは痛恨の極みであります。西冷印社からの丁寧なる弔電を賜り、厚くお礼申し上げます。梅先生は今を去る二五年前八〇周年の記念大会の折、名譽会長として団をひきつれて参加いたしました。私も八〇周年の折には秘書長として参加の栄譽を賜りましたが、実に四半世紀に亘り西冷印社と交流を深めてまいりました。

その間、中国においても沙孟海先生、啓功先生をはじめ王介珍先生、諸楽三先生、錢君匋先生他多数の社長、副社長、幹部の先生方が鬼籍に入られました。しかしその偉大な指導者が礎となり、今日の西冷印社の繁栄が築かれました。その西冷印社の隆盛は私が今更述べることではなく発展めざましいものがあります。印学、金石学など新しい研究の成果は数限りなく、様々な報告は出版物として国内外に報告されています。又、目新しい報告では国家の元政治局常務委員、副総理の李嵐清先生が篆刻の面白さを伝えて国民の間に篆刻ブームが起きていると聞いております。我が協会会員にも伝えているところです。

私共の日本篆刻家協会も梅先生のご指導の許、中国の二〇の省、直轄市と交流を重ね、交流可能な省・市とは略、交流を終えました。残念ながら芸術も世界の経済と連動しており、我が国の景気の後退に海外交流の縮小をよぎなくされています。しかし西冷印社の隆盛を見るにつけ日本篆刻家協会も今後共印社の発展と印学の発展に寄与したいと存じます。

本日はこのような記念すべき一〇五周年の開幕式に参列してご祝辞を述べる機会を賜りましたことを深く感謝すると共に、今後の西冷印社の発展を推進させることを誓いましてご挨拶と致します。

本日は本当におめでとうございませう。

◆記念レセプション(花港海航大酒店)

一〇月二四日午後七時、花港海航大酒店海航庁で「西冷印社一〇五周年華誕招待宴会」が催された。团长は三階の貴賓および中国人の会場へ、他のメンバーは二階の外国人会場のテーブルに着く。開会時のみ三階の様子がC A T Vで二階会場のスクリーンに映し出されたが、三階の賑やかさからすれば二階は静かに食事していた。終わりがけに高式熊先生ら何人かの中国人が二階の外国人席を回っていた。



雨の中の開幕式

◆記念展覧会(浙江展覧館)

一〇月二五日から雨模様「西冷印社一〇五周年社慶系列展覧開幕式」参列のため浙江展覧館に向かう。展覧館前広場に特設された真つ赤な大きな舞台で、数百人が参加して雨中の開幕式・テープカットが行われた。展覧会場はたいへん広く、西冷印社社員作品展、西冷印社書画印三項兼能社員作品展、金石拓片精品展が併催されている。当協会の西冷印社名譽社員作品も出陳されている作品展をはじめ広い会場を回り、各展を参観した。

◆記念研討会(花港海航大酒店)

一〇月二六日午前九時から、花港海航大酒店で「第二屆西冷印社國際印学峰会」が催され、杭州に留まった第二班一四人が参加した。劉江、朱関田氏他二十数人の発表者に混じり、尾崎蒼石副理事長が「江戸時代における船載文字資料・印譜資料の受容と篆刻への影響」と題して、大阪芸術大学久米雅雄氏と二人の日本人の一人として発表した。

第二回西冷印社國際印学峰会
検討会に参加して



昨年二月、國際印学峰会の招待論文の依頼が西冷印社より届き、第一回印学峰会に師梅舒適先生が参加され、同行させていたいただいた経緯があり、喜んでお受けして拙論を発表させていただきました。だきました。発表時間が約十分というところで概略のみとなりました。しかし、当日には論文集が完成していたため、全容はその中に納められております。劉江先生、朱関田先生他、発表者二十数名参加の中で私は劉江先生の次に発表しました。発表は「江戸時代における船載文字資料・印譜資料の受容と篆刻への影響」で、その要旨は次の通りです。

『江戸時代初期に渡来黄檗僧で篆刻を善くした独立と心越によつて日本篆刻が開かれ、高玄岱、榊原篁洲、池永道雲へと引き継がれ、やがて高芙蓉の出現により日本の篆刻が隆盛を極めるが、その要因を挙げると船載文字資料、印譜資料が大きな影響を与えたのではない。大庭脩先生の労作「江戸時代における唐船持渡書の研究」の中より文字資料、印譜資料を抜き出し、船載年号一覧表を作り、論文に添え論文の要としました。高芙蓉より二十七年前に中国では丁敬身が生まれ、時を同じくして秦漢への復古を提唱しました。それは秦漢古印譜に大きな影響を受けた結果であり、日本へ船載されたそれらの印譜が日本の篆刻の発展に多大な貢献があったことは事実であります。裏を返せば明代の顧從徳、清代の汪啓淑、その他の古銅印譜や名人印譜の編纂を行った人々を忘れてはならないでしょう。』

西泠印社一〇五周年記念訪中団

西泠印社創立一〇五周年記念大会に参加のため、日本篆刻家協会の訪中団としては内蒙古自治区フフホトでの交流展以来となる、訪中団(三四人)を一〇月二三日から二八日まで杭州市他に派遣した。

一〇月三日

山下方亭理事長を団長、尾崎蒼石副理事長を副団長、井谷五雲副理事長を副団長兼秘書長とする「日本篆刻家協会西泠印社一〇五周年記念訪中団」計三四人は各地から午前八時関西空港に集合した。一〇時三十分全日空便で出発し、予定どおり現地時間一二時一〇分杭州市蕭山空港に到着した。直ちに杭州市内に向かい、西湖畔の花港海航大酒店で西泠印社大会受付の手続きを済ませる。徒歩で船着き場に移動し貸切船で西湖遊覧する。花港観魚を出て三潭印月等を回り西湖をほぼ一周した船は西泠印社の門前に横付けされた。西泠印社の苑内や中国印学博物館をゆっくりと見学し、宿泊するホテル維景国際大酒店に入る。ホテル内で夕食後、印材店等がある古い街並みを残した河坊街を散策し初日を終えた。



西泠印社門前に横づけ

一〇月四日

朝、記念大会参加のため会場の杭州シャングリラホテル小礼堂へ。会場への入退場の折に旧知の中国篆刻家らと挨拶を交わし、久しぶりの交歓を深めた。式典後、徒歩で岳飛廟へ、大勢の国内旅行者等で混雑している。リリーホテルで昼食後、杭州市郊外の富陽へ。中国古代理造紙印刷文化村で宣紙の紙漉、版木による信箋の製造、復刻古代本の装丁などを見学した。更に少し移動して、三国志の呉国・孫権の末裔の村で南宋の街並みが残る龍門古鎮を訪れ、迷路のような小路を巡り、宋・明代の雰囲気味わう。



明代の雰囲気漂う龍門古鎮

夜は、花港海航大酒店海航庁で催された西泠印社一〇五周年華誕招待宴会に参加。終わりがけに高式熊氏ら中国印人が二階の外国人席に降りてきて各テーブルを回り交流を深めていた。

春茶社で夕食、揚州泊。第二班は、朝から杭州花港海航大酒店で開催された研討会に参加、劉江副社長以下約四〇人が出席の中、尾崎副理事長が論文発表を行う。その後蘇州を訪ね、同地の篆刻家汪鳴鳳氏とともに寒山寺などを見学後、上海へ向かい王玉和大酒店に宿泊。

一〇月五日

朝から雨模様、西泠印社一〇五周年社慶系列展覧開幕式参列のため浙江展覧館に向かう。雨中の屋外での開幕式・テーパーカットの後、会場に入り参観した。湖畔の紅泥砂鍋レストランで昼食後、第一班は街中の邵芝巖筆莊に立ち寄り、バスで一路揚州を目指して高速道路を数時間ひた走り、夜に宿舍の揚州京華大酒店に到着する。第二班一四人は翌日の印学峰會研討会参加のため杭州に留まる。

一〇月二六日



揚州博物館別室で金農の作品を鑑賞

第一班は、午前に奈良唐招提寺鑑真ゆかりの寺、揚州市郊外の大明寺見学後、揚州博物館を訪問。一般展示のほか別室で揚州八怪の作品を特別に見せてもらう。金聚徳で昼食後、レストラン付近の書店、文物商店等を自由散策。揚州八怪記念館、漢広陵王墓博物館を見学後、西湖を舟で遊覧、骨董街を散策する。富

一〇月二七日

第一班は、朝から鎮江へ移動、老街、焦山を回り東方大酒樓で昼食後上海へ移動。宿泊ホテルの王宝和大酒店でさよならパーティ上海蟹宴。

第二班は、豫園商場や市内観光の後、夕刻一日早く上海から帰国。一〇月二八日

午前は自由散策で上海博物館に行く者、韓天衡沙龍、高式熊サロンを訪ねる者など。新緑波廊で昼食後、豫園商場を自由散策、豫園内で開催中の故宮博物院蔵清宮帝后印璽展を見る。上海空港一九時五分発全日空便で関西空港へ。二二時前無事帰国、各自帰宅の途についた。



故宮博物院蔵清宮帝后印璽展
康熙 寿山石随型雕雲龍「御賜郎吟閣寶」

初の新年懇親会

兼ねて山下方亭先生
西冷印社名誉理事就任祝賀会

一月一八日午後大阪市中央区の大坂キャッスルホテル三階錦城閣で、協会主催では初となる新年懇親会が開催された。従来弊社主催で毎年この時期に開催されていたが、今年から協会が主催して開催することになり、昨秋発表された山下方亭先生西冷印社名誉理事就任の祝賀会を併催し、来賓の在大阪中華人民共和国総領事館李哲領事をはじめ全国各地から計二〇八人が参加した。



開会に先立ち、昨年逝去された協会初代理事長梅舒適先生のご冥福を祈って参加者全員で黙祷した。

新年懇親会は真鍋井蛙代表理事の開催のことばで始められ、山下方亭理事長のあいさつ、来賓の李哲領事の祝辞と続いた。理事長は、昨年の理事長引継ぎからの動きを報告し、二年目となる今年の実業について計画概要に触れ会員全員による協力を呼びかけた(別稿参照)。李哲領事は三〇年前から始めた自らの篆刻趣味に触れ、東京の大使館勤務時に橋本首相、小泉首相ら日本首脳に印を刻して贈り、先日橋下大阪府知事に自分の篆刻作品集を贈呈したと日中友好に努めたエピソードを披露した。

引き続き祝賀会として、尾崎蒼石副理事長から山下方亭理事長の名誉理事就任を紹介し、今後の活躍を祈りお祝いのことばを述べた。続いて領事館からの祝詞が李哲領事により翻訳して披露され伝達された。井谷五雲副理事長から記念品の贈呈、中村葉舟理事から花束の贈呈

と続き、山下理事長から謝辞が述べられ、祝宴は平田蘭石代表理事の音頭で乾杯し開宴された。大村高陵・酒居石荘代表理事がお祝いのことばを述べた。宴席は永井龍法・東尾高岳理事の進行で進められた。正副理事長・代表理事の作品等が各テーブルで一人にあたる福引も行われ、全国各地の会員が久方ぶりに一堂に会し、交流を深めていた。最後に、多田龍淵代表理事が閉会のことばを述べ、二月の総会での再会を期して解散した。

山下方亭先生西冷印社名誉理事就任祝詞
尾崎副理事長祝辞

山下方亭先生、西冷印社名誉理事ご就任誠に
おめでとうございます。これは、昨年十月に
行われた西冷印社創立一〇五周年記念大会
出席の折に決定したことで、日本篆刻協会
にとりまして、山下先生が主宰されている
随風会、またご家族にとりまして大きな喜
びだと心よりお祝い申し上げます。

西冷印社の社約の第一に「印学と金石の研究
を第一とする」とあります。印学だけではなく、
金石の研究も欠かすことのできないこと
で、その意味では日本篆刻家協会が行いまし

た中央研究会に取り上げました側款を入れ
て拓本をとるといふことも金石に囁きます。
山下先生におかれましては、どうぞ健康に留
意され、益々の活躍をお祈り申しあげ、簡
単ではありますがお祝いの言葉とさせていただきます。

山下先生、本日は誠にありがとうございます。
西冷印社名誉理事就任の報告と祝賀会のお礼
山下理事長謝辞

昨年十月二十四日、西冷印社創立一〇五周
年記念祝賀大会の副社長に於いて私を名
誉理事に推薦する事が承認され、大会で新
役員一覧が発表された。私は、今を去る一九
九五年、名誉社員に推され翌年西冷印社に
赴き社員證書を頂いた。実はその三年程前
から入社の打診はあったのだが梅先生の時
期尚早との判断で見送られ、創立九十年大
会の折には中村淳先生だけがなされた。

現名誉副社長で当時の呂国璋秘書長が上海
市浦東区に完成した「呉昌碩記念館」の落成
式の折、梅先生に直談判して頂いての実現
であった。このような経緯も今は昔話と
なった。私は随風会で訪中団を募って自ら
団長として初めて西冷印社に赴き西冷印社
では大いに歓迎を受けた。

その当時は西冷印社の呉昌碩記念館で劉江
先生、呂国璋先生、丁茂魯先生の出席を頂い
て団員も参加して「書会」を開き、夕刻の百
合花館店の祝賀宴席で今は亡き郭仲選首席
副社長より(昨年十一月逝去)社員証を頂き
感激した。(この書会作品を京都で公開)

この度の理事就任は当協会への配慮であつ
て私にとっては身に余る光栄である。組織
あつての名誉理事であり私個人のものでな
いことは承知している。全協会員とその喜
びを分かちたいと思う。

證書を頂く為に五月の協会展が終わった頃

に団を組んで訪中したい希望を持っており、
その折は今後当協会として幹部を推薦して
名誉社員に就任させて頂きたい旨伝えたい。
微力ながらそのお手伝いをしたいと思う。

—新年会兼祝賀会—

帰国後協会主催による祝賀会のお話もいた
だいたのだが、私の希望で協会の新年会を
兼ねての祝賀会を受けることにした。昨今
の社会状況のなかで協会の運営も合理化に
努め集まる機会は多くとも負担は少なくし
たいと考えている。

一月十八日は新年会・祝賀会の両方を兼ね
ての事であり先に新年会挨拶をして続いて
祝賀会という次第を組んで頂いた。

中国の西冷印社の名誉理事就任であり、昨年
の授賞式にも出席頂いた印友の駐大阪総領
事館の李哲領事に出席の依頼をした。多忙の
中、彼は領事館より総領事のメッセージを携
えて出席して頂いた。又、地方印社並に祝賀
会出席の皆様より過分なお祝いを頂戴致し
ました事に対して厚くお礼を申し上げます。



第25回展

会 期 平成21年5月19日(火)~24日(日)

会 場 大阪市立美術館 地下展覧会室

大阪市天王寺区茶臼山町1-82 TEL(06)6771-4874

不明な点は協会事務局までお問い合わせください。

協会事務局 TEL (072) 760-3852

FAX (072) 760-3853

役員出展要項 (理事長・副理事長・名誉理事・代表理事・常務理事・理事・監事・参与・評議員)

- 作品規定 参与以上…1人1点 (10 顆まで随意)
 ・軸装に限る (全て中津翰林堂で軸装する)
 ・本紙サイズ、半切 (縦 135cm× 横 35cm) 縦使用に限る。
 貼り合わせ、継ぎ合わせ不可。1 枚の用紙で提出。
 評議員……1人1点 (10 顆まで随意)
 ・軸装に限る (全て中津翰林堂で軸装する)
 ・本紙サイズ、半切 1/2 (縦 67cm× 横 35cm) 縦使用に限る。
 貼り合わせ、継ぎ合わせ不可。1 枚の用紙で提出。

- 作品締切 2月28日(土)
 出品用紙に必要事項を記入し、作品本紙と表具代を添えて中津翰林堂に提出し出品手続き完了。
 中津翰林堂 〒540-0082 大阪市中央区島之内 2-7-32
 TEL (06) 6211-7682
 ・表具代金…参与以上 10,000 円
 評 議 員 9,000 円

- 審 査 評議員作品は審査する (協会賞)
 ■搬入・搬出 中津翰林堂で一括して行う。
 本展終了後、中津翰林堂で保管し、海外展の会期に合わせて海外に送り、終了後各自へ返却の予定。評議員は都合で交流展に出品しない場合がある。
 ■作 品 集 作品集用印影一顆を選び、規定台紙に貼付けて協会事務局まで2月28日(土)締切厳守で送付。(側款拓は裏面へ貼付)作品集を一部贈呈する。
 ■その他 公募並びに会員以上全て書類と作品は同時締切となります。ご注意ください。出品票は公募から役員まで全て切り離さないで、作品と同時に提出のこと。

会員・委員・常任委員出展要項

- 作品規定 篆刻に限る(陰影のみ) ※未発表作品に限る
 1人1点(1顆1点)
 作品寸法…額装仕様(額は壁面展示のため必ず吊り金具・紐を取り付けること)
 仕上がり額寸法…縦1寸3尺(39cm)×横1尺(30cm)×厚さ1寸(3cm)程度
 ※1.額上部に出品票の上部ラベルを貼付すること。
 ※2.額の全面アクリル板右下隅に、出品票の名札を貼付すること。
 ※1.2を指定表具店または搬出入業者に依頼すること。

- 出 品 料 無料(年会費は別途会計より案内します)

- 審 査 出品全作品を陳列。
 優秀作品には賞を与える。

- 作品搬入 2月28日(土)
 1.指定搬入出業者を通じて搬入する場合
 出品票並びに、額装仕上がり作品、手数料(2,000円)を添えて中津翰林堂又は富島運輸に2月28日(土)必着で提出。
 2.指定表具店を通じて出品する場合
 2月28日(土)までに出品票並びに作品本紙を提出してください。
 ※出品手数料は、中津翰林堂又は富島運輸を通じ額装仕上がり作品で出品するときのみ必要。

- 作 品 集 作品集用印影を規定台紙に貼付けて協会事務局まで2月28日(土)締切厳守で送付。作品集を一部贈呈する。
 ※締切後の作品印影は掲載できない場合があります。

- その他
 1.出品票に記載以外の号変更は展覧会終了までできません。(出品票の号は朱で直さないこと)
 2.書類と作品搬入は同時となります。
 3.出品票は必要事項を記入の上、宛名部分を含めて全て切り離さずに、そのまま作品と指定表具店または搬入出業者へ提出してください。

本展指定表具店

- ・協和貿易美術部 TEL(043)298-5351
 〒262-0003 千葉市花見川区宇那谷町1503-6
 ・前川静観堂 TEL(06)6661-6815
 〒557-0013 大阪市西成区天神之森1-3-19
 ・中津翰林堂 TEL(06)621-7682
 〒542-0082 大阪市中央区島之内2-7-32
 ・書遊 TEL(0742)23-5547
 〒630-8243 奈良市今辻子町37
 ・相澤楽山堂 TEL(078)341-1450
 〒650-0011 神戸市中央区下山手通8-15-12

指定搬入出業者

- ・富島運輸 TEL(06)6451-0097
 〒542-0082 大阪市福島区1-4-2
 ・中津翰林堂 TEL(06)621-7682
 〒542-0082 大阪市中央区島之内2-7-32

授賞式・懇親会・創立25周年記念セミナー
 多くの方々のご参加を、心からお待ちしております

- 平成21年5月24日(日) 開会14時30分(受付13時30分~)
 ■ホテル大阪ベイタワー 〒552-0007 大阪市港区弁天1-2-1 TEL(06)6577-1111
 授賞式…4F金枝 懇親会…4Fベイタワーホール 会費…5,000円(当日納入)

役員

常任委員

委員

會員



董圃



一雄



克彦



立女



婿腹



彪



泰軒



翠雨



天山



睦苑



神丘



鏡水



雪里



青桐



章石



美智子



箕山



芝蘭



櫻泉



耕石



象堂



征



紅絲



名華



群蛙



岳權



忠敬



八夫



平峰



藏映



梅鳳



忠義



大



石峰



和代

八月課題「舒芳振條」

役員

- 出田瑠殿 宮井紅舟
- 竹内立女 中村慶峻
- 名倉克彦 吉田宗里
- 山崎一雄 伊藤桃山
- 今村重圃 高嶋満喜
- 木村容甫 龜尾武彦
- 島穆風 田中篤堂
- 堤白遊 吉野燕安
- 波部芳月 増田繁治
- 重原祥雲 石原雲木
- 阿部祥慶 武田草露
- 村田祥鳳 高橋雅子
- 射場少監 山本寿法
- 関野青 三次松雲
- 南輝代 杉山美華
- 得永春水 鈴木城山
- 中野桂朋 大橋実秋
- 杉江周作 多田学友
- 瀧藤采人 林旦山
- 丸山拓川 荻野優子

常任委員

- 桃睦苑
- 久野天山
- 田澤翠雨
- 松田泰軒
- 青黄彪
- 古瀬章石
- 福本青桐
- 羽田野雪里
- 吉田鏡水
- 奥島伸丘
- 杉山鏡二
- 奈良林露
- 大槻直佑
- 庭田露舟
- 倉野看雨
- 河瀬魚仙
- 杉本素月
- 田中九成
- 坂正歩
- 田中壽江
- 石亀明峯

委員

- 筒井耕石
- 西谷桜泉
- 亀井芝蘭
- 永井箕山
- 竹村美智子
- 田原群蛙
- 秋山名華
- 荒川紅絲
- 小谷征
- 中石象堂
- 立石見聲
- 小堀蒼洋
- 松嶋翠郎
- 森原晋作
- 竹中朴
- 若松一伸
- 浅良朱華
- 野崎恒夫
- 横手幸雄
- 黒田悦子

會員

- 山口叢映
- 松永平峰
- 内本暢八夫
- 上田忠敬
- 丸田岳僊
- 服部和代
- 眞壁石峰
- 三原大
- 高橋忠義
- 井谷梅風
- 川久保明
- 吉三友
- 木村行石
- 岩崎拓治
- 笹井岳峯
- 大垣内悟道
- 小貫剛
- 森静一
- 吉崎雲堂
- 安井芳泉
- 中村紀久
- 前田勲厓
- 杉山千枝
- 植林和夫
- 岩田耕烟
- 須基康恵

榊原悠園

- 榊原悠園
- 新井碧峰
- 西谷龜石
- 團栗利之
- 今宮翠輝
- 岡田桂舟
- 北村斗舟
- 小林啓子
- 菅白峰
- 榊原有光
- 城下江暉
- 田中翠景
- 谷啓子
- 福島次郎
- 岩井敏之
- 西山進
- 今井朴仙
- 茶本仙華
- 伊地美優子
- 宮沢鮮
- 安田佳舟
- 佐野哲舟
- 滝口照影
- 館智舟
- 畑間青露
- 伊田香泉
- 安田邦石
- 今西九郎
- 岩崎拓治
- 笹井岳峯
- 大垣内悟道
- 小貫剛
- 森静一
- 吉崎雲堂
- 安井芳泉
- 中村紀久
- 前田勲厓
- 杉山千枝
- 植林和夫
- 岩田耕烟
- 須基康恵



九姚



輝代



立女



塘假



踏青



繁治



彪



明峯



丹瀨



宗里



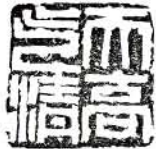
草瀨



紅舟



直佑



実秋



紳丘



晋作



群蛙



美智子



青瀨



耕石



啓子



紅絲



利之



容史子



桂舟



芳泉



墨石



紅霞



大



藏映



青瀨



瑞碩



謙之



明



行石

役員

常任委員

委員

会員

役員

○関路青

○出田塘假

○竹内立女

○南隈代

○服部九姚

○木村容庸

○名倉克彦

○島村風

○村田祥鳳

○重原祥雲

○今村董圃

○射場少藍

○山崎一雄

○中野桂麿

○堤白遊

○阿部祥暉

○杉江周作

○渡部芳月

○得永春水

○遠藤米子人

菅野鑒子

古瀬章石

杉山美華

中村慶峻

倉野看雨

松田泰軒

石原雲木

石原雲舟

庭田露舟

杉山鍊二

林旦山

三次松雲

田中篤堂

亀尾武彦

鈴木城山

山本寿法

田澤翠雨

伊藤桃山

新井碧峰

西山進

榎原悠園

秋山名華

松嶋翠郎

福島次郎

滝口照影

谷啓子

横手幸雄

宮澤輝

北村斗舟

安田佳舟

岩井敏之

今井朴仙

永井箕山

館智舟

野崎恒夫

榎原有光

中西一系

若松一伸

浅良朱華

安田邦石

伊地美保子

伊田香泉

佐野晋舟

金井明子

今宮翠輝

立石見鸞

加藤辰二

宮崎外茂一

松永平峰

吉崎雲堂

森静二

田中良子

立石雄二

高橋忠義

中尾惠至

田中白瑤

富山蘭翠

向畑芳翠

吉三友

植林和夫

安西幸恵

笹井岳峯

大垣内信道

服部和代

津堅康風

中村紀久

鈴木翠峰

杉山千枝

杉山ひさみ

伊田千枝

伊井啓

井谷梅風

内木場八夫

山内真波

岩田耕烟

宮澤神竹

畑温子

前田筋厓

小貫剛

森本翠汀

岩崎拓治

福谷華紅

井関碧水

内匠俊夫

役員



立女



祥雲



踏青



少藍



祥蓮

常任委員



曉苑



得仙



章石



紅舟



明峯

委員



学友



彪



一穂



宗里



素月



啓子



雀山



晋作



見聲



九郎



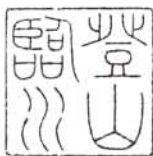
進



群蛙



紅絲



羊頤



富久美

會員



謙之



惠聖



忠敬



翠峰



紀久



八夫



俊夫



宝樹



巖映

役員

○竹内立女

○重原祥雲

○関路青

○射場少藍

○阿部祥慶

○出田博殿

○中野桂圃

○関野羊越

○得永春水

○木村容庸

○今村董圃

○名倉克彦

○堤白遊

○南輝代

○遠藤孝人

○渡部芳月

○島種風

○杉江周作

○山崎一雄

○高嶋満喜

○服部九姚

○常任委員

○桃曉苑

○國方得仙

○古瀬章石

○宮井紅舟

○石亀明峯

○多田学友

○青黄彪

○稲田一穂

○吉田宗里

○杉本素月

○増田繁治

○田中壽江

○小谷征

○田中九成

○山本寿法

○丸山蘇爾

○古野燕安

○林且山

○坂正歩

○松田泰軒

○倉野看雨

○芦野美子

○大槻直佑

○石原雲木

○武田草露

○丸田拓川

○城下江擘

○伊藤桃山

○杉山鍊二

○鈴木城山

○奈良丹露

○高橋雅子

○吉田鏡水

○奥島神丘

○庭田露舟

○久野天山

○河瀬魚仙

○杉山美華

○中村慶峻

○三次松雲

○田中壺堂

○谷口彩雪

○田澤翠雨

○委員

○小林啓子

○竹内雀山

○森原晋作

○立石見聲

○今西九郎

○西山進

○田原群蛙

○荒川紅絲

○石川羊碩

○山崎寄久美

○西谷亀石

○西谷椋泉

○團栗利之

○羽田野雪里

○前田正陽

○岩井敏之

○竹中朴

○若松一紳

○松嶋翠郎

○福馬次郎

○筒井耕石

○畑間青露

○黒田悦子

○浅良朱華

○滝口照影

○谷啓子

○小堀蒼洋

○安田邦石

○伊地美保子

○横手幸雄

○茶本仙華

○田中翠景

○伊田香泉

○宮澤鮮

○北村斗舟

○富山蘭翠

○安田佳舟

○佐野哲舟

○服部和代

○菅白峰

○今井朴仙

○吉崎雲堂

○中西一系

○永井真山

○館智舟

○野崎恒夫

○岩田耕烟

○今宮翠輝

○新井碧峰

○榎原有光

○會員

○内木場八夫

○中尾恵丞

○森静二

○岩崎拓治

○笹井岳峯

○北畑謙之

○眞壁石峰

○内匠俊夫

○杉山千枝

○大泉香華

○青木雄山

○鳴川遠華

○川端隆一郎

○小橋青濤

○伊井啓

○加藤辰二

○松永平峰

○田中良子

○丸田岳權

○吉川京子

○安井芳泉

○杉村ひさみ

○鹽忠夫

○長谷山墨石

○高橋忠義

○井谷梅風

○長浜英治

○前田筋庄

○山内眞波

○川久保明

○益邑隆

○木村行石

○金井明子

○向畑芳翠

○立石雄二

○宮崎外茂

○小川憲石

○吉三友

○植林和夫

○宮澤神竹

○井関碧水

○田中白瑠

○岡田泰道

○小嶋瑞碩

○安西幸恵

○森静二

○岩崎拓治

○須藤康恵

十月課題「登山臨水」

役員

常任委員

委員

會員



容甫



祥雲



立女



輝代



芳月



武彦



得仙



桂舟



明峯



草石



九郎



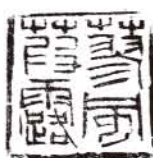
天山



正雄



素月



芝蘭



桜泉



牛石



白峰



容史子



朱華



智舟



雪里



典子



和代



紅絲



明



麗映



芳泉



宏可



外茂一



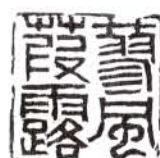
忠笙



翠峰



克己



碧泉



行石

- | | | | | | | | |
|--|--|--|--|---|---|---|---|
| 三松雲
浦本秀洞
杉山鍊二
丸山蘇碩
谷口彰雪
青黄彪
增田繁治
奈良林露
多田学友
杉山美華
大槻直佑
福田一穂
松嶋翠郎
森原晋作
松本春石
滝口照影
田原群蛙
竹中朴
前田正男
筒井耕石
松本弘碩
谷啓子
小堀蒼洋
安田佳舟 | 松田泰軒
武田草露
城下江暉
福田一穂
大槻直佑
福田一穂
松嶋翠郎
森原晋作
松本春石
滝口照影
田原群蛙
竹中朴
前田正男
筒井耕石
松本弘碩
谷啓子
小堀蒼洋
安田佳舟 | 松田泰軒
武田草露
城下江暉
福田一穂
大槻直佑
福田一穂
松嶋翠郎
森原晋作
松本春石
滝口照影
田原群蛙
竹中朴
前田正男
筒井耕石
松本弘碩
谷啓子
小堀蒼洋
安田佳舟 | 常任委員
○古瀬章石
○石亀明峯
○岡田桂舟
○岡方得仙
○龜尾武彦
○龜井芝蘭
○杉本素月
○尾白正雄
○久野天山
○今西九郎
松田泰軒
武田草露
城下江暉
福田一穂
大槻直佑
福田一穂
松嶋翠郎
森原晋作
松本春石
滝口照影
田原群蛙
竹中朴
前田正男
筒井耕石
松本弘碩
谷啓子
小堀蒼洋
安田佳舟 | 委員
○大城守子
○菅白峰
○荒川紅絲
○服部和代
○松浦典子
○羽野野里
○館智舟
杉江周作
松永平峰
武友早知子
宮澤鮮
西谷龜石
中西一系
今井朴仙
松嶋翠郎
森原晋作
松本春石
滝口照影
田原群蛙
竹中朴
前田正男
筒井耕石
松本弘碩
谷啓子
小堀蒼洋
安田佳舟 | 會員
○宮崎茂一
○森原宏司
○安井芳泉
○西口麗映
○川久保明
○木村行石
○安藤牛石
○松野碧泉
○越西克己
○鈴木翠峰
○中尾惠生
○高橋忠義
○前田助彦
○境山正甫
○田中良子
○川端隆一郎
○藤本忠義
○内藤華泉
○岩崎拓治
○小幡晋清
○大泉香華
○富山蘭翠
○鳴川遼華
○福谷華紅
○永田乾石
○向畑芳翠
○井谷梅鳳
○加藤辰二
○長浜英治
○立石雄二
○眞壁石峰
○山内真波 | 役員
○渡部芳月
○南謙代
○竹内立女
○重原祥雲
○木村容庸
堤白遊
遠藤季人
山崎一雄
高橋満喜
今村董圃
関野羊越
阿部祥庵
服部九姚
中野桂樹
田澤翠雨
得永春水
鈴木城山
吉田鏡水
古野燕安
大庭景雲
小谷征
林且山
中村慶峻
石原雲木
桃睡苑
田中篤堂
高橋雅子
吉田宗里
田中九成
須基康忠
杉村ひさみ
岡田泰道
丸田岳徳
金井明子
植林和夫
萩野蒼雲
杉田仰風 | 西峯智永子
大垣内悟道
小嶋瑞碩
渡會俊正
野野美久代
田中穂積
笹井岳峯
杉山千枝
内木場八夫
小河水雲
永井孜黄
須基康忠
杉村ひさみ
岡田泰道
丸田岳徳
金井明子
植林和夫
萩野蒼雲
杉田仰風 |
|--|--|--|--|---|---|---|---|

十二月課題「夢風霞露」

役員

常任委員

委員

會員



容庸



翠雨



清喜



白遊



立女



桂舟



黄彪



陸苑



芝蘭



泰軒



九成



利一



慶峻



紅舟



素月



早知子



斗舟



照影



群蛙



典子



平峰



耕石



園代



晋作



藏映



翠峰



宏司



青濤



良子



俊正



育治



碧泉



韻桂



隆一郎



遼華

- | | | | |
|------|-------|-------|--------|
| 役員 | ○竹内立女 | 稻田一穂 | 西谷亀石 |
| | ○堤白遊 | 城下江陣 | 宮澤鮮 |
| | ○高嶋満喜 | 尾白正雄 | 小倉澤陽 |
| | ○田澤翠雨 | 石龜明峯 | 谷啓子 |
| | ○木村容庸 | 國井無鷲 | 大泉香華 |
| | ○山崎一雄 | 吉田鏡水 | 永山箕山 |
| | 渡部芳月 | 大槻直佑 | 羽田野雪里 |
| | 重原祥雲 | 倉野看雨 | 今宮翠輝 |
| | 今村重圃 | 雪繩寶石 | 竹中朴 |
| | 南嶺代 | 浦本秀洞 | 中石象璧 |
| | 邊藤米人 | 多田学友 | 横手幸雄 |
| | 中野桂朋 | 吉田宗里 | 荒川紅絲 |
| | 得永春水 | 大庭景雲 | 松本弘碩 |
| | 関野羊越 | 石原雲木 | 小堀蒼洋 |
| | | 鈴木城山 | 館智舟 |
| | | 三次松雲 | 西谷椋泉 |
| 常任委員 | ○松田泰軒 | | 今井朴仙 |
| | ○亀井芝蘭 | 委員 | 菅白峰 |
| | ○桃睡苑 | ○松浦典子 | 吉崎雲堂 |
| | ○青黄彪 | ○田原群蛙 | 松嶋翠郎 |
| | ○岡田桂舟 | ○滝口照影 | |
| | ○杉本素月 | ○北村斗舟 | 會員 |
| | ○宮井紅舟 | ○武友知子 | ○渡會俊正 |
| | ○中村慶峻 | ○西口藏映 | ○田中良子 |
| | ○桑木利一 | ○森原晋作 | ○小幡青濤 |
| | ○田中九成 | ○原田園代 | ○森原宏司 |
| | ○小谷征 | ○筒井耕石 | ○鈴木翠峰 |
| | ○奈良林露 | ○松永平峰 | ○鴨川遼華 |
| | ○亀尾武彦 | ○服部和代 | ○川藤一郎 |
| | ○古野燕安 | ○伊田香泉 | ○酒向韻桂 |
| | ○古瀬章石 | ○富山蘭翠 | ○松野碧泉 |
| | ○浅良朱華 | ○田中翠景 | ○藤村育治 |
| | ○小澤博石 | ○石川羊碩 | ○中村紀久 |
| | ○丸山蘇碩 | ○岩井敏之 | ○永井牧黄 |
| | ○杉山鍊二 | ○松本春石 | ○安井芳泉 |
| | ○奥島岬丘 | ○團栗利之 | ○田中浩子 |
| | ○秋山名華 | ○田山堅 | ○大坪内愷道 |
| | ○今西九郎 | ○佐野哲舟 | ○吉三友 |
| | ○杉山美華 | ○安田邦石 | ○小嶋瑞碩 |
| | ○庭田露舟 | ○安田佳舟 | ○木村牟山 |
| | | ○湯浅榮一 | ○丸田岳樞 |
| | | ○中西二系 | ○杉田仰風 |
| | | | ○境山正甫 |
| | | | ○内木場八夫 |
| | | | ○小川憲石 |
| | | | ○植林和夫 |
| | | | ○須基康恵 |
| | | | ○中尾恵生 |
| | | | ○木村行石 |
| | | | ○田中穂積 |
| | | | ○浜田知義 |
| | | | ○津堅康風 |
| | | | ○岩崎拓治 |
| | | | ○向畑芳翠 |
| | | | ○永田乾石 |
| | | | ○杉山千枝 |
| | | | ○岡田泰道 |
| | | | ○内藤華泉 |
| | | | ○宮崎外茂一 |
| | | | ○前田斯厓 |
| | | | ○金井明子 |
| | | | ○川久保明 |
| | | | ○馬場龍二 |
| | | | ○玉村綱代 |
| | | | ○高杉桂華 |
| | | | ○山内真波 |
| | | | ○西家智永 |
| | | | ○青木雄山 |
| | | | ○笹井岳峯 |
| | | | ○吉川京子 |
| | | | ○田中白瑠 |
| | | | ○加藤辰二 |
| | | | ○小河水雲 |

十一月課題「乾坤純和」

文人的篆刻家 梅舒適先生を偲ぶ 理事長 山下方亭

思い起こせば昨年の夏八月、師の梅舒適先生の訃報に接したのはお見舞いしないうち一週間後であった。あれ程お元気なお姿を拝見した矢先であつて余りにも早い黄泉への旅立ちであつた。八月二十七日、老梅という大樹が倒れた。今現在、先生の数々の業績は今更語るまでもなく書道界、篆刻界には知れ渡つてゐるがあえて紹介してみたい。

先生は一九一六年大阪生まれ、大阪外語卒(現大阪大学)後商社に入り北京、天津に赴任され、中国の書画文物に直に觸れてゐた。その昔といった文も見ることが出来る。その作品の匂いが中国風といわれる所以である。一九四八年、自ら篆刻研究「篆社」を結社して金石、篆刻の指導を始め、研究誌「篆美」を発刊して、日本・中国の印学の為の寄与された。

二十五年前、この篆社を母体とする日本篆刻家協会を創立して自ら理事長として二千余の会員を擁する組織に育て上げたのは人間梅舒適の魅力に他ならない。それは若年の頃既に実績がある。日本書芸院創設時においても辻本史邑先生の手足となつて支え宮本竹徑先生、村上三島先生と三羽鳥として書芸院創設に奔走したことは周知の事実である。その後日本書芸院の理事長を務め、現在は最高顧問であつた。

一方海外、殊に中国に於いても有名で

中国、シンガポールの書法家協会と友好

を重ね梅舒適といへば知らぬものはいない存在であつた。篆刻の殿堂ともいふべき杭州の西泠印社の名誉副社長にも推され友好交流の歴史を重ねた。又新しくは一昨年就任の中国芸術院篆刻芸術院顧問に招聘された。この北京の芸術院は梅蘭芳先生を初代院長として現在に至る唯一の国家直轄の芸術院であり新設の篆刻芸術院に一人日本の海外顧問として就任され、本年四月北京で開催の中国第一回寿山石篆刻芸術展に出品されて中国の梅舒適ファンを魅了したところでありその作は海外展における絶筆となつた。(出品作篆書 孤標 篆刻人生足別離と老馬識途)

また一方国内にあつては、大阪府日中友好協会の役員として諸々の行事に積極的に参加し、本部の日中友好協会の顧問を務めていた。

昨年五月体調不良により自ら勇退宣言をして事実上協会は引退して後事を我々に託してゐた。書道界、篆刻界に大きな足跡を残されて九一歳の天寿をまっとうした偉大なる師に対して拙い追悼文は叱責されそうである。先生の創立された日本篆刻家協会は二十五周年を迎え、ご遺志を継ぎ、続けてまいりますという決意を高徳院文警正道舒適居士のご霊前に捧げてご冥福をお祈りしたい。

—合掌—

※依頼を受けて雑誌「墨」に寄稿

協会で月例作品募集

- 一月……問梅消息
出展【寄道稿】
意味 梅華の様子を伺う
 - 二月……唯吾知足
出展【工鏡文】
意味 余計な望みを持たないこと
 - 三月……見素抱樸
出展【老子】
意味 飾り気の無い心を見て素朴な性質を保つこと
 - 四月……與古爲徒
出展【古語】
意味 古人の弟子となる
 - 五月……得風作笑
出展【金農(圓竹題記)】
意味 竹はそよ風に吹かれ笑うような姿を呈する
 - 六月……磊磊落落
出展【張仲甫(留題)】
意味 あけすけで小さなことに拘らないこと
 - 七月……獨 樂
意味 一人楽しむこと
 - 八月……法二一李
意味 秦代の秦斯と唐代の李陽の篆書を根本として学ぶこと
 - 九月……游于藝
出展【礼記】
意味 芸事を学ぶ
 - 十月……談何容易
出展【梁書】
意味 口で言うほど容易ではないこと
 - 十一月……宜有千万
意味 良いことが沢山あること
 - 十二月……庚 寅
意味 二〇一〇年干支
- 印の大きさ…一寸以内
■締切…各月末日消印有効(二月のみ二月末日)
■用紙…半紙半載(篆社印箋使用可)に左記六点をご記入ください。
①月 ②課題名 ③印社名 ④協会資格(日本篆刻展出品資格) ⑤氏名
⑥会員コード(一般の方は空白。会員の方で空白の場合、一般となります。ご注意ください。)
- 送り先…千五六三—〇〇三二 池田市石橋二丁目二—〇牧野ビル二〇三号
日本篆刻家協会 月例作品係宛

展覧会の案内と報告

- ▼随風會(山下方亭)
隨風會第二回篆刻展
会期 三月二日～四月五日
会場 京都市美術館
- ▼越思家会(大村高陵)
越思家会篆刻作品展
会期 四月二日～二六日
会場 高岡文化会館
- ▼篆瀛社(古瀛幽畦)
幽於藝術展
会期 五月二日～六月二日
会場 兵庫県学校厚生会館 アートホール神戸
- ▼墨染印社(黄平齋)
静岡篆刻二〇人展
会期 六月一日～六月二六日
会場 藍画廊
- ▼寧和展(喜多芳邑)
第五回寧和展
会期 六月二日～二六日
会場 奈良県文化会館
- ▼一隅會(池田眞喜多芳邑・黒田玉洲・南岳泉・古瀛幽畦)
第一七回一隅會展
会期 六月二日～二八日
会場 奈良文化会館
- ▼北庄家会(多田龍淵)
第三三回北庄家会展(特別展覧石印材)
会期 六月二日～二八日
会場 福井県立美術館
- ▼淡味家会(南岳泉齋)
淡味家会展二〇〇九
会期 七月三日～七日
会場 神戸市立こうべまちづくり会館

- ▼不華家会(酒居石社)
不華家会習作展XVII
デザインとしてみる篆刻の展開
会期 十月二日～四日
会場 伊丹市立工芸センター
- ▼畦石舎(小朴圃)
第二四回畦石舎作品展
会期 十月三日～五日
会場 京都市日函デザイン博物館
- ▼齊平家会(眞鍋井蛙)
第二二回齊平展
会期 十月九日～十一日
会場 大阪くらしの今昔館
- ▼遠邇家会(伊藤雅夫)
第一八回社中展
会期 十一月十日～十五日
会場 クリエート浜松三階
- ▼創象家会(玉木水象)
創象家会篆刻展
会期 十一月十七日～二三日
会場 高松放送局(ふれあいギャラリー)
- ▼蒼文家会(尾崎蒼石)
第一三回蒼文家会展
会期 十一月二七日～二九日
会場 大阪美術倶楽部新館
会員個展
- ▼西安市中国書法芸術博物館主催
在日書法篆刻家黄教奇先生西安報告展
会期 四月二日～五月四日
会場 中国西安市書法芸術博物館
- ▼馬景泉来日二〇周年篆刻展
会期 六月十三日～十九日
会場 江戸川区総合文化センター

展覧会報告

- ▼祥風家会(佐川大華)
祥風家会グループ展「篆刻って何?」
会期 二〇年十月二日～三〇日
会場 ギャラリー群青

協会の行事

- ▼海外交流 西冷印社一〇五周年記念行事
参加のため訪中団派遣
日時：〇月二三日(木)～二八日(火) 場所：杭州市他
- ▼第二回企画委員会
日時：二月三日(日) 場所：事務所
- ▼常務理事会
日時：二月三日(日) 場所：事務所
- ▼第三回企画委員会
日時：二月七日(土) 場所：事務所
- ▼第一回理事会・新年会
山下理事長西冷印社名誉理事就任祝賀会
日時：二月八日(日) 場所：大阪錦城閣
- ▼第二回理事会・平成二一年度総会
講演会『漢代の書』(牛丸好一先生)・懇親会
日時：二月二五日(日)
場所：グリーンヒルホテル明石
- ▼予定
- ▼第二回展覧審査会
日時：三月二八日(土) 場所：大阪市中央会館
- ▼第二回日本篆刻展
日時：五月一九日(火)～二四日(日)
場所：大阪市立美術館地下展覧会室
- ▼授賞式・創立二五周年記念セレモニー
日時：五月二四日(日)
場所：ホテル大阪ベイタワー
- ▼地方展
日時：六月二五日(木)～七月三日(水)
場所：古河市立篆刻美術館
- ▼第二回中央研究会
日時：八月八日(土)～二〇日(月)
場所：神戸市舞子ビラ
- ▼創立二五周年記念特別講演会『説文解字』
講師：島根大学教授 福田哲之先生
日時：八月九日(日) 場所：神戸市舞子ビラ
- ▼海外交流(詳細未定)
中国芸術院篆刻芸術院との交流展を
北京市で共催 訪中団派遣

編集後記

ようやく創刊にこぎつけた前号で、今後は年二回、定期刊行して会員にお届けする予定と申しあげながら、また一カ月遅れてしまいました。次はきつと……。

篆刻のメッカといわれる西冷印社、第二世紀に入り一〇五周年と歴史を刻んでいます。わが協会には名誉理事一人、名誉社員七人を擁し関係も深いところから、記念行事への参加となりました。

月例課題に多くの応募をいただきました。限られた紙面で一部しかご紹介できませんが、会員の篆刻に対する意欲の向上に資することができれば幸いです。

やっと二号の刊行でまだまだ不備な点もありますが、今後とも改善を重ねて協会の動きが全会員に伝わるように努力してまいります。お気づきのこと、ご意見など郵便、ファックス、メールなどで事務所までお聞かせいただきますようお願いいたします。

tenkoku@river.ocn.ne.jp
編集：会報部
酒居石社 邊見匠匡 南岳泉齋
榊原晴夫 木村容庸 内田真弓